

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2084号 2023年12月03日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

※イエナプラン教育とは？

私の理解力では端的に説明出来ませんが、ドイツの大学で発祥したオルタナティブ教育(主流または伝統とは異なる教育)の一つで、オランダでは200校以上の学校で普及しているそうです。一人ひとりの人間はかけがえのない価値を持つとして、目指すべき社会、学校の姿を掲げた「20の原則」というコンセプトに基づいて、異なる年齢の子どもが同じグループで学びます。また教科ごとの時間割ではなく、「対話」→「遊び」→「仕事」→「催し」という4つの基本活動を繰り返し展開すること等が、この教育方法の主な特徴の一つとされているようです。

詳しくは「日本イエナプラン協会」のホームページをご覧ください。

公立学校初のイエナプラン教育校 広島県福山市の「常石ともに学園」を視察しました

全国から学校、教育関係者や行政等の職員などが視察に訪れます。この日も20名ほどが参加しました。



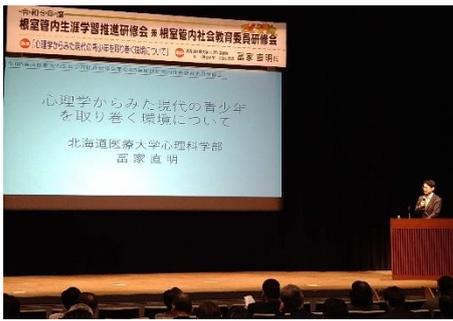
11月22日、日本共産党根室市議団は広島県福山市にある「常石ともに学園」を視察しました。ここは公立学校で初めて「イエナプラン教育」の認定校として昨年開校した学校です。

根室市立花咲港小学校ではインクルーシブ教育の実現をめざし、イエナプラン教育の考え方を取り入れた教育に取り組んでいることから、その内容について学ぶため視察を行いました。根室市議会の会派(久保田陽議員、須崎和貴議員)、無所属の西田浩一議員とともに訪れました。

常石ともに学園は昨年、市内の小学校を統廃合した校舎に新規開校されました。日本のイエナプラン教育の認定校は長野県の大日向小学校・中学校に続いて3校目。公立校としては初めての取り組みです。地元の企業グループによる支援で校舎は全面的にリニューアルされました。教室には黒板が無く、ホワイトボードやプロジェクトが自由に活用されます。また児童が対話しやすいよう教室内にベンチを置き、廊下でも自由に子どもが学べるよう机やイスが設置され、壁は見通しの良いガラス張りになっています。

開校2年前から旧常石小学校では3学年を一つのグループにした教育を取り入れてきました。ただしオランダのイエナプラン教育をそのまま行うのではなく、福山市が市内全小中学校等で目指している「子ども主体の学び」を実践するために、イエナプラン教育のコンセプトを取り入れて、常石ともに学園ならではの「学び」を作っていました。従来の同一学年による対面式授業ではなく、異なる年齢のグループの中で子ども達同士が対話し、試行錯誤しながら自ら考えること。また子ども達同士で教え合っている「わかる」という学びの方式が、福山市が掲げる教育目標に合致する教育方法であると考えているのではないかと、学校側の説明を聞きながら思いました。

「心理的安全性が高い社会を作ろう」 昨年の小中高生の自殺者数が過去最多に



※心理的安全性: エドモンドソンが1999年に提唱した心理学用語で、「チームの他のメンバーが自分の発言を拒絶したり、罰したりしないと確信できる状態」と定義 (富家氏の資料から抜粋)

11月27日、令和5年度根室管内生涯学習推進研修会兼根室管内社会教育委員会研修会が市総合文化会館で開催されました。一般にも公開された講演会では北海道医療大学心理科学部長の富家直明氏が「心理学から見た現代の青少年を取り巻く環境について」をテーマに講演をされました。

富家氏はコロナ後にメンタルヘルスが課題となり、全体としては自殺者は減少傾向にある中、昨年の小中高生の自殺者数が514人と過去最多であると説明。富家氏が自殺の状況を分析したところ政府が言うような「自殺のサイン」を明確に放つ人は多くないそうです。SOSに気づくためには個々の抱えているプレッシャーや心身の苦痛感等を傾聴し共感すること。またストレスに対して、本人の「考え直す力」やコミュニケーション能力など「社会的スキル」を養うこと。そして衝動的な「感情を制御」するための手法を学び得ていくことの重要性を説明しました。また心理的安全性が低くなること不安が悪化するとして、①失敗が出来る(ミスを受け入れてもらえる)、②助け合いがある、③挑戦が出来る、④ヘンテコ大歓迎 異なる意見・個性を大事にする」という4つの因子をふまえて、心理的安全性が高い社会環境を作っていく必要性についてお話されました。

常石ともに学園あるいは福山市全体における学校教育について、
①福山市教育委員会は2016年から「福山100NEN教育」として目指すべき子どもを「自立」「共生」「自己実現」というビジョンを立て、市全体で「自ら考え学ぶ授業づくり」という教育の目標を掲げています。その方針のもと常石ともに学園だけでなく、福山市内の各学校で独自の取り組みが進められています。
②常石ともに学園のイエナプラン教育は前述のビジョンを達成するための手法の一つとして取り入れられました。

③また例えば「子ども主体の学び」と言っても具体的にはどういうことか。答えはそれぞれの授業の中にあるとして、学校長が中心に各クラスを頻りに廻り、それぞれの授業の内容や子ども達の様子を記録。内容を動画等で共有し、教員同士で互いに理解を深めています。
④そうした成果は一つの学校内だけで完結することなく、各学校が毎月の校長会による研修などを通して、それぞれの授業内容を共有して、市全体で教育活動の推進が図られていることが、大きな特徴ではないかと私は受け止めました。

